

『摂食嚥下障害看護』 研修会実施報告

日時 : 令和4年12月8日(木) 8:30~12:30

対象者 : ラダーIを目指す者・地域支援対象研修

参加者数 : 対象者 25名 地域医療従事者 4名

目標 : 摂食嚥下障害のアセスメント方法、訓練方法を習得し、看護実践に活用することができる

<講師の紹介>

摂食・嚥下障害看護認定看護師
4階A病棟 I

<内容>



今回の研修は「口から食べる事を考える」をテーマに、なぜ食べるのか、食べる事が出来ないとどうなるのか、という質問を研修生に投げ掛ける所から始まりました。

食物を食べる為には、体のどの器官がどのような働きをする事が重要なのか、何が問題で食べる事が難しくなるのかについて、解剖学的観点から改めて学ぶことが出来ました。

演習では、「水分を飲む」「ゼリーを食べる」「大きさ・形状の違うスプーンでの食べ比べ」を行い、食事を介助される方の疑似体験ができました。研修生からは、食べやすさ食べにくさを考える機会になったと多数の感想が聞かれました。また、「器質的障害」「機能的障害」「心因的障害」等、嚥下機能が低下する疾患や、食事摂取時の姿勢や口腔ケアの方法など、看護実践に必要な知識や技術を深めることができました。

患者の事を深く知りたい、理解したいという姿勢で情報収集能力を高めていくことが、摂食嚥下障害のある患者・家族のよりよい生活へ繋がっていくと気づかされるものとなりました。

今回の研修から、食事介助時のリスクを理解し、口から食べられる喜びを患者と共に感じる事ができるように関わって行くことの大切さを学びました。